



ご存じですか？「はしご受診」の問題点

適用給付担当

044(520)7825

Kn-p-kyufu-QA@ml.toshiba.co.jp

医師の紹介で別の医療機関を受診するのとは異なり、同じ病気やけがで複数の医療機関を転々と渡り歩くことを「はしご受診(重複受診)」といいます。「なんとなくお医者さんと相性が合わない」「新しい病院を見つけた」など、自身の都合で「はしご受診」をしてしまうと、さまざまなデメリットが生じます。「はしご受診」のデメリットについてご理解いただき、受診行動の見直しをお願いします。

■ デメリット

その1. 治療期間が長引く！

医師は患者の訴えや症状をもとに検査や治療を行います。医療機関を変えるたびに治療を一からやり直すことになるため、治療方法を確立することができず、治療を長引かせる原因にもなります。

その2. 体に負担がかかる！

薬や注射の重複による弊害も心配されます。別の病院で診察や投薬があったことを告げずに「はしご受診」することで、必要以上の注射をされたり、複数の医師から出された薬を服用したりするのは大変危険です。

その3. 医療費がかさむ！

同じ症状で複数の医療機関にかかり、同じ検査・診療が行われた場合、2倍、3倍…と医療費がどんどん膨れ上がってしまいます。

<はしご受診の医療費の例>

同じ病院なら…				はしご受診をすると…			
1回目	初診料	2,880円	+検査料など	A病院	初診料	2,880円	+検査料など
2回目	再診料	730円		B病院	初診料	2,880円	+検査料など
3回目	再診料	730円		C病院	初診料	2,880円	+検査料など
合計		4,340円	+検査料など	合計		8,640円	+検査料など×3

初診料は再診料の
約4倍の額

検査料
約3倍

※上記金額は医療費総額(10割)です。患者負担・健保負担額は年齢などによる自己負担割合(3割または2割)により異なります。

■ セカンドオピニオンとは違います

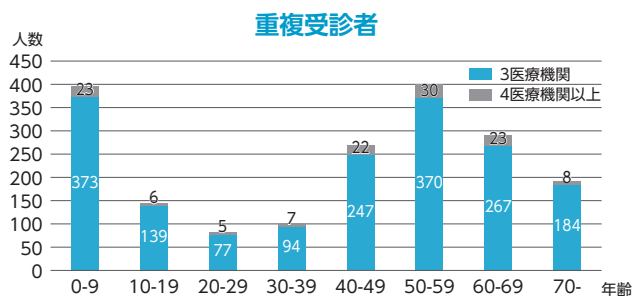
診断結果に納得できないから、とすぐに違う病院に行くことをセカンドオピニオンと勘違いされている方はいませんか？セカンドオピニオンとは、納得のいく治療法が選択できるように、診断や治療方針について、現在診療を受けている医師とは別の医療機関で「第2の意見」を求めることです。結果的に転院となる場合でも、元の医師とよく話し合い、治療データを提供してもらうことで、検査や薬の重複を避けることができます。

■ 東芝健保加入者の受診状況調査(2019年度)

右は年齢階層別にみた、ひと月の内に同系の傷病で3医療機関以上受診した人数のグラフです。

総計1,875人、40歳以降が6割でした。

また、同じ傷病に対して複数の医療機関を受診し、同じ薬を複数回もらっているという事例も見受けられました。



■ お医者さんに相談を

やみくもに病院を変えるのではなく、まずは主治医に可能な限り自身の症状・望む治療方針・不安などを積極的に伝えましょう。聞きたいことなどをあらかじめ書き出しておき、メモを見ながら話すのもよい方法です。日頃から主治医とのコミュニケーションをとることは治療を進める上で大切です。